

令和元年度事業報告書

特定非営利活動法人 WE21 ジャパンこうほく

1 事業の成果

記録的猛暑・暴風雨台風・暖冬に加え、年度末には新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響を受け、リユースリサイクル事業を安定して運営することは困難でした。それでも、寄付者数・顧客数が前年を上回り、目標の事業高を達成できたのは、参加型運営が定着して大勢が活動や運営に関心を持ち、声を掛け合って元気に活動が進められたからだと思います。

民際協力事業では、フィリピンへのモニタリングが新型コロナウイルス感染防止のため延期され、国内国外いずれも現地訪問はできませんでしたが、支援先代表やスタッフ、コーディネーターからの報告を共有する場を昨年同様もつことができました。また、自分たちでプログラムを作成し支援にかかわっていく JICA 草の根技術協力事業の委託団体募集に初めて応募しました。残念ながら不採択でしたが、これまでの民際協力事業や資金調達について学ぶことが多く考える機会にもなりました。

地域の活動拠点としての機能も高まり、大倉山店はカジノ誘致問題の情報交換の場となり、日吉店では WE カフェがボランティアを中心に企画が進められました。

認定 NPO 法人取得から 5 年目となり、更新申請し、2025 年まで更新されました。

2 事業内容（特定非営利活動に係る事業）

I. 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

1) ショップ事業

(1) 大倉山店

- ・内 容 リユース・チャリティショップ運営
- ・日 時 通年 営業日数 281 日
- ・場 所 横浜市港北区大豆戸町 6 0-1
- ・従事者人員 ショップマネージャー 3 人、ボランティアスタッフと運営委員 22 人（延べ 763 人）
- ・受益対象者 市民 主に港北区南部・鶴見区
- ・寄付件数 2,816 件
- ・事業高 8,537,554 円
- ・支出額 7,564,404 円

(2) 日吉店

- ・内 容 リユース・チャリティショップ運営
- ・日 時 通年 営業日数 281 日
- ・場 所 横浜市港北区大豆戸町 2-1 2-7
- ・従事者人員 ショップマネージャー 3 人、ボランティアスタッフと運営委員 28 人（延べ 952 人）
- ・受益対象者 市民 主に港北区北部・川崎市
- ・寄付件数 2,392 件
- ・事業高 7,733,046 円
- ・支出額 6,833,515 円

2) 環境活動 両店で衣類やガラス陶器のリサイクルなどを行いました。

	大倉山店(前年比)	日吉店(前年比)	備考
ファイバー (衣類リサイクル)	569 袋 (127.6%)	243 袋 (119.7%)	
ガラス・陶器の リサイクル	ガラス 9 箱・陶器 13 箱 (96%)	ガラス 3 箱・陶器 17 箱 (83%)	毎月1回の回収で、 再利用されました。
可燃物・不燃物の 廃棄費用	85,730 円 (87.2%)	67,579 円 (80.2%)	

3) リメイク活動

ボランティアで構成される3つのリメイクチームと連携して、販売できなかった寄付品等を利用したリメイク活動を行いました。また、リメイク品の販売、活動を広げるための教室開催などに協力しました。

II. アジア等における市民、とりわけ女性の生活の向上と自立のための活動を支援する事業（民際協力事業）

収益からの支援額については 運営委員会で支援検討会を開催し、決定しました。

総支出額 1,478,938 円

1) 海外支援 合計 921,082 円

(1) タナオココミュニティにおける生計向上支援によるエンパワーメント事業

- ・実施団体 カンボジア NGO CAE (The Center for Actions towards Equality)

- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々

カンボジアスバイリエン州コンボンロー郡タナオココミュニティ 429 世帯

- ・支援額 2018 年度の収益金による 2019 年度事業への支援額 300,000 円

- ・プロジェクトの概要

農業組合の支援、農業技術指導、若い農家の人材育成支援、最貧困世帯の子どもたちの支援、ネットワーキング活動などを行なっています。CAE 活動拡大のため、タナオ常駐スタッフが1名別地に異動しました。副代表が来日した1月に報告会を開催し、日本留学中の代表と共に活動報告を受けました。

(2) コーヒーの森づくり・アグロフォレストリー栽培による災害に強いコミュニティづくり

- ・実施団体 フィリピン NGO コーディリエラ・グリーン・ネットワーク(CGN)

- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々

フィリピンコーディリエラ地方ベンゲット州トゥブライ郡アンバサダー村コロス集落、および、タビヨ集落 (45 世帯)

- ・支援額 2018 年度の収益金による 2019 年度事業への支援額 250,000 円

2019 年度の収益金からの支援額 16,230 円

- ・プロジェクトの概要

台風被害が残り、森林が失われている地域に現金収入となる作物を混栽し、環境に配慮した森づくりを行うことで、持続可能な森林再生・災害防止・生活向上を図るための支援を行っています。2019 年度は住民組織 MOAPA の組織強化に力を入れ、①トレーニング実施②倉庫の建設③乾燥施設の追加材料提供④Cooperative Development Authority(CDA)の協力組織として登録⑤コーヒー業界に参入している成功した協同組合・組織訪問をおこないました。

(3) 有機農業の発展を通じたゆたかで幸福なコミュニティの構築

- ・実施団体 緑の芽有機農園学校

- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々

カンボジアタケオ州、カンポット州、コンポントム州有機農家

- ・支援額 2018年度の収益金による2019年度事業への支援額 300,000円
2019年度の収益金による2020年度事業への支援額 300,000円

- ・プロジェクトの概要

小規模農家と消費者の生活を向上させる目的で、開拓的有機農家と協力して実施するプロジェクト。有機の米・野菜・ピーナッツ・胡麻・コーヒー・胡椒を栽培する300人の有機農家支援を計画し、有機農産物基準にそって作物を生産し、それらの市場参入が容易になるよう支援しています。11月に現地調査に現地訪問した米倉雪子さんを招いて報告会を開催。有機栽培で消費者と結びつき、出稼ぎせずに生活できる農家が増えていること、支援金が有効に活用されていることが報告されました。

(4) チョコ募金キャンペーンを通じたイラク・シリア・福島支援

- ・実施団体 NPO 法人 JIM-NET (日本イラク医療支援ネットワーク)

- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々

イラクにおける小児がんの子どもたち、シリア難民・イラク国内避難民、福島の子どもたち

- ・支援額 474,852円 (チョコ募金 354,100円、店頭募金 20,752円、2019年度収益金から 100,000円)

- ・プロジェクトの概要

イラクの小児がんの子どもたちへの医療支援、イラクに逃れてきたシリア難民、子ども、イラク難民キャンプでの支援活動、福島の子どもたちを放射能から守る活動を行っています。

- ・プロジェクトの内容を広く知らせるため、今年度も「イラク支援報告会」を開催しました。

(5) ミャンマー地雷犠牲者への義足支援

- ・実施団体 NPO 法人地雷廃絶日本キャンペーン (Japan Campaign to Ban Landmines)

- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々

ミャンマー、カヤ州での地雷犠牲者 50人 (目標)

- ・支援額 130,000円

- ・プロジェクトの概要

ミャンマーはアジアの中でも犠牲者が最も多い国です。現地パートナーの KNHWO (Karen National Health Worker Organization) が、受益者のカウンセリングから義肢の製作までの一連の作業を実施しています。2020年3月末現在で67人 (男性が62人、女性が5人) に義肢の提供が行われました。材料購入費の不足が原因でおこる義足製作中断を防ぎ、年間を通して工房を開けるよう、2019年度は資金集めに奔走し WE21 ジャパンなど新たな支援者を得ることができました。

2) 国内支援 合計 557,856円

(1) 横浜山北リフレッシュプログラム

- ・実施団体 福島子ども・こらっせ神奈川

- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 檜葉町やいわき市周辺に住んでいる子どもたち

- ・支援額 82,855円 (収益より 70,000円、店頭募金 12,855円)

- ・プロジェクトの概要

福島に暮らす子どもたちが放射能を気にすることなく野外で存分に活動できる機会を提供しています。2019年8月5日～7日、檜葉町やいわき市周辺の小学生28名を招き、神奈川県山北と横浜で保養や交流が行われました。

(2) 生活困窮者自立支援

- ・実施団体 寿支援者交流会 1、越冬闘争委員会 2、寿炊き出しの会

- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 寿町地域並びに近隣居住者・横浜市内の野宿生活者

- ・支援額 1、寿町越冬闘争委員会へ 20,000円

2、寿炊き出しの会へ 73,053円 (収益より 60,000円、店頭募金 13,053円)

- ・プロジェクトの概要

横浜市中区寿町地域並びに近隣居住者、野宿生活者等を対象に「寿地区センター」「炊き出しの会」等地

域の支援団体が連携し合って炊き出し・バザー開催、訪問活動、医療・法律・生活・労働の相談活動を行っています。行政の窓口の閉まる年末年始には特に総力を挙げて支援を行っています。こうほくからは支援金のほか、年間を通してバザーへの参加と衣類の寄付を行い、その他学童保育行事、越冬支援等の諸行事に参加し、諸支援団体や地域の人との交流を通して地域の課題の理解に努めました。

(3) 放射能測定室併設検診センター開設支援

- ・実施団体 認定 NPO 法人 いわき放射能市民測定室 たらちね
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 いわき市及び原発事故被災地住民
- ・支援金 271,948 円 (収益より 200,000 円、店頭募金 71,948 円)
- ・プロジェクトの概要

福島第一原子力発電所の事故による被曝の被害から子どもたちと地域の人々の健康と暮らしを守る活動を継続しています。無料で子どもドックを実施していることに加え、2020 年 1 月からは、食品などの放射能測定も無料になりました。クリニック運営、甲状腺の検診、保養活動、「ワルンペ」という施設での精神保健面での支援も続けています。

(4) 子どもの生活支援

- ・実施団体 特定非営利活動法人子どもセンターてんぼ
- ・プロジェクトの対象となる地域及び人々 家庭内に居場所を持たない神奈川県の子どもたち
- ・支援金 100,000 円
- ・プロジェクトの概要

虐待などの理由によって家族と共に暮らすことのできない 18 歳～20 歳の子どもたちを対象に、居場所を提供しての生活支援 (シェルター運営) や、法的支援、自立支援 (自立援助ホームみずきの家の運営)、電話相談を行っています。2019 年 10 月、シェルター担当理事より新たに設けられた法人会員と、子どもセンターてんぼの最新活動状況について聞きました。会計報告からは潤沢な資金があると思われた団体でしたが公的な補助なしで行っている子どもの電話相談事業、安全対策にかかる費用などが必要な事等、活動に必要な資金調達の難しさを知ることができました。

(5) 3. 10 東日本大震災かながわ追悼の夕べ 支援

- ・実施団体 3. 10 東日本大震災かながわ追悼の夕べ実行委員会
- ・支援金 10,000 円
- ・プロジェクトの概要

神奈川に避難してきた人々と、東北につながろうとする神奈川の人々とともに開く追悼の場の開催への支援金を決定しました。イベントは新型コロナウイルスの影響で中止となりました。

3) フェアトレード品の販売による支援

ジンジャーティ、コーヒー、オリーブ石鹸の 3 品目を取扱い、生産者グループの生計向上に寄与しました。年間仕入額 計 158,788 円

- ・ジンジャーティ 生産者：フィリピン・ベンゲット州住民組織ウバパス・ダイヨコン・ランパダ
仕入額 91,000 円 (昨年比 100%)
商品を利用したレシピとともに販促試飲を数度行いました。
- ・アシーラ石鹸 生産者：パレスチナ・アシーラ女性組合
仕入額 0 円
在庫分の販売を行いました。
- ・シサムコーヒー 生産者：フィリピン・CGN (コーディリエラ・グリーン・ネットワーク)
仕入額 67,788 円 (昨年比 42%)
試飲販促の機会を設けましたが、扱量は前年に比べて半減しました。

4) キャンペーン

(1) 貧困なくそうキャンペーン 期間：10月8日～10月19日

今年はSDGsのアピールとWE21 ジャパンこうほくの活動をSDGsの視点から紹介していく機会としました。取り組みに当たっては山中悦子氏（ピースデポ共同代表・草の根援助運動理事・WE21 ジャパン平和政策チーム・こうほく会員）を迎えて2回のSDGs学習会の持ち、17の各開発目標について学び、WE21 ジャパンこうほくが取り組んでいるリサイクルショップ活動・携わっている支援団体のプロジェクト・日頃の生活や環境問題との関係を学び、私たちにできることを店頭で地域の顧客と一緒に考えるきっかけとしました。

(2) 「3.11を忘れない」キャンペーン 7月、および3月11日

7月は「福島子どもこらっせ神奈川」の保養プログラムへの支援を呼びかけ、7月両店売上げから70,000円と店頭募金(7/1～31)12,855円の合計82,855円をこらっせ神奈川に寄付しました。(先述、国内支援(1))
また年間通じて「認定NPO法人いわき放射能市民測定室たらちね」の活動を紹介し、2月に放射能測定無料検査支援で100,000円、年度末に更に100,000円、年間店頭募金71,948円、合計271,948円を支援できました。(先述、国内支援(3))

(3) チョコ募金キャンペーン 期間：12月11日(水)～2月10日(月)

2019年1月16日(木)日吉店にてJIM-NET活動報告会を開催し、がんの子どもとその患者家族のための支援施設「JIM-NETハウス」の完成と運営についてJIM-NETスタッフ斉藤亮平さんにお話を伺いました。カード含め647個分の募金354,100円と期間中の店頭募金20,752円、収益からの支援金100,000円、合計474,852円をJIM-NETに寄付できました。(先述、海外支援(4))

5) 支援事業地訪問

フィリピン・コーヒーの森づくり事業モニタリングツアー（中止）

2月19日～23日にコーヒーの森づくり事業の組織MOAPAを訪問予定でしたが新型コロナウイルス感染拡大防止のため年度内に実施できませんでした。

6) 学習会・報告会の開催

日時・場所	内容	講師・報告者	参加人数
7月23(火)10時～12時 港北区社協団体交流室I	JICA 事業のための学習会	WE21 ジャパン小池絢子さん・会員大竹恵美子さん・運営委員門永さつきさん	14名
8月8(木)11時～12時15分 港北区社協団体交流室II	SDGs 事前学習	こうほく会員山中悦子さん	12名
8月27(火)10時半～12時15分 港北区社協団体交流室I	CAE 報告会	NGO/CAE 代表ブンツンさん	17名
10月8日(火)10時半～12時30分 港北区社協団体交流室I	「SDGsって何」貧困なくそうキャンペーンキックオフ学習会	こうほく会員山中悦子さん	19名
11月22日(金)10時半～12時半 港北区社協団体交流室I	「緑の芽有機農園学校・ゆたかで幸福なコミュニティ」報告会	昭和女子大准教授/元 JVCカンボジア事務局長 米倉雪子さん	10名
12月5日(木)10時半～12時半 KUV アネックス	「地雷なき世界をめざして」	地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)代表理事清水俊宏さん	18名
1月16日(木)13時半～15時半 日吉店	「JIM-NET ハウス」完成と運営について	NPO 法人JIM-NET 海外事業部スタッフ斉藤亮平さん	26名
1月18日(土)10時半～12時 KUV アネックス	CAE 報告会	カンボジア NGO/CAE 副代表上田美紀さん	11名

III. この法人の事業の広報普及を図る事業

1) 会報・ニュースなど紙ベースの広報

会報を6月と12月に発行、会員以外にも広く配布しました。また、運営委員会の様子を伝える紙面を作成して会員に発信・郵送しました。

2) ホームページの運営

ショップ情報やイベントの告知・報告を遅滞なく、なるべく写真とともに掲載し、記事内容の充実に努めました。

3) フェイスブック・ブログの運営

フェイスブックでの情報発信と、ショップブログでの情報発信を継続しました。Google マップの閲覧回数をカウントすることにより、両店への関心を測る試みも始めました。

IV. 組織活動

1) 組織運営

(1) 会員 期首51名 期末57名(入会 9名、退会 3名) 目標65人

(2) 参加型組織運営が進展し、主に運営委員で担っていた活動にボランティア・会員の参加が増えました。自由な発想で意見交換するためのチームを結成して毎月ミーティングを持ち、その討論結果から運営委員会に提案を行いました。日吉店でのWEカフェはボランティアが中心となって企画運営し、年5回開催しました。

ボランティアミーティング 大倉山店 11月12日(火) 9名

日吉店 9月19日(木) 11名 2月27日(木) 10名

(3) 事務局体制

事務局長1名(マネージャー兼任)、大倉山店・日吉店マネージャー各3名

事務局会議を3回(6月・11月・3月)開催しました。

2) 地域との交流

住みやすい地域づくりをめざす地域団体と連携・協力し、地域との交流を深めました。

- ・「大倉山みんなの食堂」の食材寄付の窓口となり、広報・協力しました。食材の寄付件数：5件
- ・らくらく市(らくらく市実行委員会主催) 5月19日(日) 菊名地区センター前庭
- ・こうほくふれあいまつり 6月1日(土) 主催港北区 新横浜公園
- ・小さなまちの小さな平和展(同実行委員会主催) 3月9日(月)~13日(金)ギャラリーかれん
- ・チョコ募金を地域団体にもよびかけ、6団体の協力を得ることができました。

3) その他

- ・認定NPO法人として、より高い公益性を追求し、情報公開・適正な運営に努めました。認定NPO法人の更新の申請(9月19日)を行い、5年間の更新(2025年3月5日まで)が認められました。
- ・WE21 ジャパングループのメンバーとして連携しました。JCSN(日本チャリティショップ・ネットワーク)からの依頼によるWEショップ見学を受け入れ、チャリティショップ立ち上げ支援や見学に対応しました。(5月17日、7月11日、8月21日、8月23日) コーヒーの森づくり事業支援連絡会、ジンジャーティーミーティングに参加して、支援やフェアトレード事業について情報を共有しました。
- ・ワーカーズコレクティブ協会からの依頼を受け、「就労準備実習生」を2018年10月~2019年6月に1名、2020年1月から1名を日吉店で受け入れました。
- ・危機管理への取り組みとして、総会で防災講座を開催しました。